

生理学サマースクール2002に参加して

日本大学医学部精神神経科学教室 鹿中 紀子

私は心理士として日本大学の精神科に入局して4年が経ちます。心理士としての臨床に殆どの時間を費やす毎日ですが、約1年前から研究にも興味を持つようになり医局の精神生理学研究班に入りました。多くの時間を研究のために割くことができないばかりでなくこれまで生理学という学問に直接触れたこともなかったため、研究に関する知識の習得が思うようには進まない日々を送っていました。どうにか周囲の先生方のおかげや環境への慣れもあり、少しずつ知識もついてきたものの学会、研究会に出ても専門分野の細かい話が多くピンとこないこともあり、自ら参加しようという気持ちにはなりません。何か生理学の基礎から理解できる勉強会があれば行きたいなあ、とっていたちょうどその時、生理学サマースクールの話聞き参加することに決めました。

テキストを頂いてから早速目次を拝見。今回のテーマが「視覚」でしたので網膜の講義から始まり、外側膝状態、V1、MT・MST野、頭頂葉、側頭葉、前頭葉のように順序よく配置されたプログラムでした。どれも興味をそそられる内容ばかりで学びたい気持ち呼び起こされた感を受けたものです。会場へは、日本各地から参加者が集まっており、それぞれ企業の方であったり、研究所の方であったり、学生、大学院生、医師、作業療法士、心理士のように様々な職種の方が参加できる非常に開かれた勉強会でした。これもそれぞれ立場からの見方や意見を聞くことで、より新しい発見につながる事を考慮した事務局の方々の心意

気から来ていたそうです。そして講義をして下さる先生方の熱心さと聴講する若手の意欲には本当に驚きました。とにかく会場全体からエネルギーを感じるのです。質疑も活発に行われ、皆さん生き生きとしていました。休憩時間には周囲の方との交流もあり、講義後の飲み会ではそれぞれの目標や展望を堂々と語る姿が見られ、皆さん希望に満ちていてとても印象的でした。

今回、勉強会に出た事がきっかけで自分自身の研究に対してのモチベーションを得ただけでなく、これから自分が目指していく方向等についても熟考するようになりました。日々臨床中心に動いている私は、精神分析的な知識や精神療法全般の知識に向き合う機会の方が多くそちらに偏りがちでした。そのような中で、生物学的な知識に向き合う機会が得られる環境にいるのは幸運なことだと気が付きました。私自身の展望はまだ浅く、どこで双方が融合していくのか考えがまとまりませんが、研究で得られる知識や新しい情報、考え方などをできる限り臨床に還元していきたいと考えています。

生理学サマースクールに初参加して、研究に対する興味や面白さをより感じる事ができました。また、同じ世代の人達が様々な目標を持って日々それに向かっていっているという現状を見て、とても良い影響を受けました。若手のモチベーションを高める効果を持つ開かれた勉強会を、これからも継続して開催していただければと思います。